

「草の根技術協力事業の案件の質の向上に向けて」ワークショップ実施報告

◆ワークショップの目的

・JICA の草の根技術協力事業をよりよいものにしていくための、ピアレビューと課題の抽出を行う。「質の高い」のはどのような案件か、「10 年の振り返りのための分科会報告書」の提言をもとに協議していく。

- (1) JICA との連携意義、連携により付加価値を持つ案件
 - ① 連携したからインパクトが向上したことはあったか
 - ② JICA と連携しやすい分野・アプローチは何か
- (2) 一定水準の質の担保に工夫がなされた案件
 - ① 具体的にどんな工夫がされたか
- (3) NGO の特徴をより活かした案件
 - ① JICA 連携で専門性が高まった好事例(NGO が受け皿となったため専門性が高まった事例)
 - ② JICA 連携で、NGO らしさが出せたかどうか、出せなかった場合、何が難しかったか。
- (4) イノベーティブな案件
 - ① 具体的なイノベーティブな取り組み（事業全体でなくても活動レベルでも可）
- (5) その他：組織、個人能力強化など
 - ① 組織・個人の能力強化となったか
 - ② JICA 草の根によってアクセスが広がったステークホルダーはあるか、できなかったことはあるか

日程：10月4日 14:00～17:30

企画準備、ロジ：Plan Japan 馬野、SCJ 藤野、SVA 山本、JANIC 大蔵、JVC 長谷部、

会場：SVA 慈母会館

参加団体：10 団体 12 名

■趣旨説明 (WS の成果説明) SVA 山本

■「10 年の振り返りのための分科会報告書」概要説明 (元 JANIC 定松氏)

■事例共有 DPI 日本会議の案件 中西氏、盛上氏

ブラジル ろう者組織の強化を通じた非識字層の障害者への HIV/AIDS 教育

*本事業は、振り返り報告書で「政府間協力では対象としにくいだが、現地ニーズの高い課題に取り組んだ事例」として事例報告あり

■グループワーク (10 団体) 3 グループ

※各グループで事例共有に基づき協議

(1) ～ (5) をもとに話し合う。

■結果発表

・制度、運用、連携に関するコメントのみならず、そもそも「質の高い事業とはなにか？」という根本を問う発表もみられた。

◎今後について：本ワークショップのまとめならび今後の推進については、企画に関わった NGO 側コーディネーターで 10 月末に会議を持ち、方向性をつくる予定。